

平成28年度
四倉中学校

学校だより

11月25日(金) 第27号

文責 校長 中根 猛

母親委員会バズセッションを開催しました

11月18日(金)午後6時30分から四倉中学校母親委員会主催のバズセッションを開催しました。テーマの「子どもの心を動かす言葉かけ～子どもと向き合う～」をもとに子育てについてみんなで語り合いました。保護者の皆さんと先生方をあわせて22名の参加者があり、5つのグループに分かれて行いました。1回目は、共通のテーマで、「思春期・反抗期の言葉かけ」と「学習意欲を高める言葉かけ」から選んで、語り合いました。2回目は、事前アンケートに寄せられた13のテーマから選択しました。グループごとにまとめの発表もあってお互いの悩みやアイデアを共有することができました。その後、物事を学ぶときに視覚、聴覚、身体感覚、言語のどの感覚を使っているか気づくことができる「優位感覚チェックシート」を使って自分の特性について振り返りました。

母親委員会の皆様には、会場準備や会の進行そして、コーヒーやお菓子なども準備していただきました。とても和やかな雰囲気の中で楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。

いわき市PTA研究大会に参加して

11月19日(土)にいわき市文化センターで第14回いわき市PTA研究大会が開催されました。PTA役員の皆さんと一緒に参加してきました。そのときの講演が素晴らしいお話でしたのでご紹介します。講師は、竹下和男氏。香川県で小中学校の校長先生をされた時に始めた『子どもが作る弁当の日』の普及のために全国各地での講演や執筆活動をされている方です。

「弁当の日」とは、家の人に手伝ってもらわずに一人でお弁当を作って学校に持ってきて食べる日のことです。「献立、買い物、調理、弁当箱詰め、かたづけ」のすべてを子どもにやらせませす。親は手伝わないでください。というのが決まりです。弁当を作る。すなわち、自分で食べるものを自分で作ることで、様々なことを考えたり気づいたりするようになり、子どもの心や思考を育ててくれるそうです。例えば、作ってくれた人への感謝の思い。おいしいと言われたときの喜び。食材の値段や産地に注意するようになる。食材を手にするまでにたくさんの大人たちが働いていることへの感謝。そして、家族との会話が増えること。お話の途中には、限られた余命の中で自分の身の周りのことは、自分でできるようにさせたいという母の思いが伝わる「はなちゃん味の味噌汁」のスライドショーもあって多くの人の涙を誘っていました。また、脳の発達や成長曲線との関連から思春期に五感を育てたり共感する脳を育むのに料理は役立つことも知りました。まさに「料理というのは、自分も他人も幸せにする魔法の杖」だと実感しました。

大会の閉会式では、来年度の福島県PTA研究大会が10月15日(日)にいわき市で開催されることから、大会成功に向けて決意表明がありました。

税に親しむキャッチフレーズ 最優秀賞受賞

いわき市では、市民が税を身近なものとして親しむため、昭和61年度からキャッチフレーズの募集を行っています。本校でも3年生が税に親しむキャッチフレーズに多数、応募しました。その結果、武田和華さんの「いわき市の豊かな未来を納税で」が生徒の部で最優秀賞に選ばれました。また、平澤優香さんと新妻奈央さんの作品が佳作に選ばれました。なお、本校は、平成28年度租税教育推進協力校の委嘱を受けています。12月には、2年生を対象に租税教室を開催する予定です。

<登下校途中の交通事故が心配です>

朝の通勤時間帯の6号国道が危険です。出勤するために急いでいる車が多いです。さらに、大型ダンプの通行量も多くそばを通過するときに強い風圧を感じます。歩道を歩いても事故の危険性が高くなっています。そのために次のことに注意させたいと思います。

- ①事故の危険は、どこにでもある。周囲に注意を巡らして危険を予測すること。
- ②歩道を歩くときは、できるだけ車道よりも遠いところを歩くこと。
- ③傘を差しているときは、自動車の風圧に傘をとられないように注意すること。
- ④事故に遭ったら「大丈夫」と自己判断せずに警察や救急隊員にけがの程度を伝えること。
- ⑤事故直後は、痛みを感じなくても後で痛くなる時があるので、必ず病院に行くこと。